

# 世界へ続く道 「銀の道」



みさとちょういわみぎんざんかいどう

## 美郷町石見銀山街道

平成23年度認定 / 島根県邑智郡美郷町 / 美郷町銀山街道を護る会

### 世界遺産石見銀山遺跡からはじまる銀運搬の歴史道。

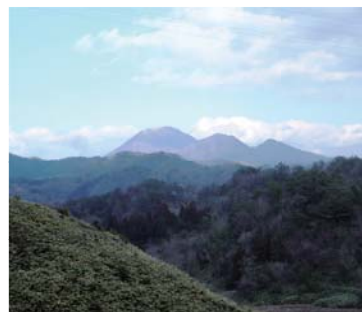
徳川幕府の直轄地であった「石見銀山」で生産された銀は、大森から尾道に至る「銀山街道」(幕府へと上納するための街道)を通り、大坂を経由して海外へも流通していきました。美郷町を通る銀山街道には数々の難所がありますが、その過酷な道筋とは相反して、清々しく華麗な景観と風土が広がっています。町を通る街

道は約28kmあり、壮大で豊かな自然の中で当時銀を運んだ人々は、一瞬の安息感とともに歩む力を得たことでしょう。

その歴史の鼓動を今、脈々と感じることができます。

銀の輸送には牛馬300頭、400人もの人々が集められました。一行は朝、大森を出発、美郷町にある「箱茂の松」を目指し

# 歴史の息づく 大自然は 今も生き続ける。



茶縁原(三瓶山の雄大な姿が現れます。このあたりにも茶屋があり、茶屋の縁からこの名前が付いたと言われています。)



小原河原(銀輸送の一行はここで昼食休憩を取りました。)



中国自然歩道入口(このあたりからの尾根道が「やなしお道」です。)

ます。その後、標高およそ280m、約7.5kmに及び、当時の面影を残している「やなしお道」に入ります。この街道の歴史は古く600年以上前から存在しますが、銀山奉行大久保長安が、真砂土と粘土を交互に層状に塩を加えて固めた「版築工法」で竹の繁茂を免れるよう整備しました。途中竹林に囲まれた「十王堂」と呼ばれる場所や茶屋敷跡があり、ここを抜けると三瓶山の雄大な姿が望める「茶縁原」にでます。やなしお道の最後には大難所といわれる九十九折りの下り坂「やなしお坂」があり、ここを下ると尻無川河口の「小原河原」に

でます。昼休憩を取った後、江の川を臨む「半駄が峽」にさしかかります。高所で道幅の狭い崖道を、馬に積んだ荷物を半分にして人が抱えなければ通れなかったことからこう呼ばれました。ようやく第1日目の宿泊地「九日市」にたどり着いたのは闇迫る8時頃だったようです。大森から尾道までは3泊4日の行程、まだまだ街道は続きます。

美郷町には今も、銀山街道の古い道筋、小原宿の街並み、風格ある幕末の本陣などが残されており、歴史の息吹とともに懐かしさを感じることができます。

### 銀を運んだ歴史のある街道を実際に歩いて、当時の情景を感じてみてください。



「美郷町役場」の和田哲也さん

美郷町で生まれ育った和田さんに語っていただきました。美郷町石見銀山街道の中でも、特に「やなしお道」は当時に一番近い状態を残しています。実際に銀を運んだ道と同じ道を歩いて歴史を感じてください。歩かれた方の多くが「本当に牛馬数百頭を引き連れてここを歩いていたのか」と驚かれます。「やなしお道」ではガイドが案内をして毎月ウォーキングを開催していますのでぜひ四季折々の景色も楽しみながら歩いて頂ければと思います。

